

令和7年度第2回練馬区立美術館運営協議会 要録(案)

日時：令和8年3月17日(火)午後2時00分

場所：サンライフ練馬3階研修室

出席委員 高橋幸次会長、島田紘一呂副会長

佐藤康宏委員、内藤正人委員、馬淵明子委員、関直子委員、田中淳委員、水上明子委員、石森愛委員、須藤麻世委員、畑智江子委員、石原秀男委員、吉田巳蔵委員、小室賢一委員

区職員 大木地域文化部長、渡辺文化・生涯学習課長、稲永美術館再整備担当課長

会 長： 本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
ただいまから、令和7年度第2回練馬区立美術館運営協議会を開催いたします。はじめに、大木地域文化部長よりご挨拶いただきます。よろしくお願いいたします。

地域文化部長： <地域文化部長あいさつ>

会 長： それでは、議事に入る前に委員の出席状況について、事務局からご報告をお願いいたします。

文化・生涯

学習課長： 文化・生涯学習課長の渡辺です。本日は委員3名から欠席のご連絡をいただいております。また、今期委員は17名、現在14名の出席でございます。従いまして美術館運営協議会条例第7条第2項の規定により、本日の協議会は成立したことをご報告させていただきます。なお、傍聴希望者はありません。以上ご報告いたします。

会 長： ありがとうございます。はじめに本日の議事の進行についてお諮りいたします。次第1「令和8年度事業計画(案)」から順次、説明を受け、議題ごとに質問等を受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

<異議なしの声>

それでは次第1「令和8年度事業計画(案)」について説明をお願いいたします。

館長ほか： <「令和8年度事業計画(案)」について説明…館長、学芸員、
文化・生涯学習課長>

会 長： 「令和8年度事業計画(案)」について質問等がありましたらお願いします。

委員： 「アートマルシェ」についてお伺いします。昨年、開催日の近くに近隣の地図と、パンフレットがポスティングされており、とても分かりやすく、重宝しました。こういったものがあると非常に参考になりますし、これを見ながら計画的に参加ができると思いますので、今年もこのようなものがあればよいなと思いました。

それともうひとつですが、展覧会の際に解説をする文字の大きさが展覧会によって異なっていると思います。こちらについてはどのようにお決めになっているのでしょうか。

館長： 「アートマルシェ」および「アーツ中村橋」については、地図を見ながらまちなかを歩いていただいて、アートを見るだけでなく、街歩きも楽しんでもらいたいという思いもあります。また、ついでに近隣のお店に寄っていただいて買い物をしていただきたいという意図もあります。そのため、地図や案内については重要視しているので、次年度についても、必ず作成をし、もう少し配布先を広げるなど手取りやすいような形で用意できればと考えております。

展覧会のキャプションについては、現場ではできるだけ大きくということを中心にしております。作品数の多い展覧会ではそこまで大きくできなかつたり、照明の加減で見にくいものもあつたりするため、均一のフォーマットなどは定めておらず、ケースバイケースではありますが、せつかくの解説なので、多くの人に読んでもらいたいという思いもあります。やはり文字情報から鑑賞体験は豊かになるとと思いますので、お互いにチェックしながら、改善を図っていきたくと考えております。

委員： 5ページの美術館維持経費についてですが、昨今、光熱費や人件費の上昇などがありますが、令和8年度の予算は、7年度よりどのくらい上がっているのか教えていただきたいです。

美術館管理係長： 令和7年度と8年度で展覧会の要素や維持管理の部分を単純に比較はできないですが、7年度の予算といたしましては約2億8000万円を予算として計上しておりまして、8年度は人件費高騰分を含めて、約3億2000万円の予算を計上しております。

金額としては約4,000万円の増額となっております。

委員： 開催概要からいくつかお聞きしたいのですが、「アーツ中村橋」のところで、昨年のアートマルシェ2025「身体で感じる緑とアート展」が、14ページを拝見しますと目標数が6,000人だったところ、実際が3,710人となっています。この時は開催日数が17日間ということでしたが、今回の「アーツ中村橋」を拝見すると、実働58日間で目標見込みが4,800人となっております。前回より開催日数が多いにもかかわらず人数が上がっていない点が気になったのですが、この観覧者見込みは、どのように決定されたのか教えてください。

館 長： 令和7年度の「アートマルシェ」は、会場が3つに分散しており、美術館の中と、美術の森緑地と、まちの中で開催しました。ただ観覧者数は、美術館の中に入った人数だけをカウントしたため、目標値に達していません。8年度については、まちなかに設置された作品の観覧者数や、緑地の人数なども厳密には難しいですが、ある程度推定できる根拠を持った形でカウントして人数に加えようと考えております。

ただ、それでも目標値が、少ないのではないかというようなご指摘だと思います。7年度は企画展がほとんど美術館で出来ず、区民ギャラリーの人数もかなり減っております。休館中のようなイメージができてしまっているかもしれないので来年度はそこから少しずつ上昇して、底上げを図っていく最初の1年にしたいと考えております。そのため、控えめな数字となっておりますが、確実に上向きにいくように、心がけていきたいと考えております。

委 員： 先ほど、「美術館は開かれていく」というお話もあったと思いますが、今回、タイトルが「アーツ中村橋」ということで、非常にコアな印象を受けました。中村橋にお住まいの方であれば美術館のことをご存じの方も多く、今後どのように変わっていくのかを楽しみにされている方も多いのではないかと思います。一方で、練馬区は広いため、中村橋と聞いて実際に足を運ばれる方は、どうしても限られてしまうのではないかと感じました。私自身、美術館がより多くの方に開かれていってほしいという思いがあります。そのため、そうした点も踏まえ、観覧者数の目標値を意識しながら、ソフト面をもう少し充実させていただければと感じました。

また、ほかの展示に関しましても、どれだけ多くの人を呼べるかという点は非常に重要だと思っています。私自身、アニメが好きなのですが、他の美術館では、有名な声優が音声ガイドを担当していることがあり、それをきっかけに、これまで見たことのなかった作品に出会うという経験も実際にあります。そのような工夫について、これまでに検討されたことがあるのか、また、今後実施することが可能なのかについて、お聞きしたいと思います。

館 長： 音声ガイドはよく定着していて、それを聞くためだけに展覧会に行く人も最近は増えていると聞いております。そのため、当館でも、導入して行きたいとは思っています。一方で、予算の問題もあります。全国を巡回するような展覧会であれば、利用者総数は多く見込めるので廉価で提供できるのですが、全部自主企画で作ると大きな出費となってしまいます。そのため、利用料金を300円や500円程度とした場合、採算が取りにくい部分があるのも事実です。今後は、その点を踏まえ、費用対効果を計算しながら検討していく必要があると考えています。

ご指摘のとおり、音声ガイドは非常に効果的で、来館者の関心を高めるものでもありますので、導入に向けて運用方法を含めて検討していかなければならないと考えております。

委員： 「若林奮・寺田真由美展」の観覧料が500円で、他の2つの企画の方が1000円になっているのは展示スペースが少ないからでしょうか。常設展に関しては安ければ安い方がよいと思っておりますが、企画展はあまりに安いとかえって観覧者が来ないのではないかと思います。私は同じ金額にしてスペースが半分しかないから、損をしたと言う人もいるかもしれませんが、スペースのことを理由にするなら、例えば800円にするなどの選択肢もあるのではないのでしょうか。

学芸員： 500円に落ち着いた理由といたしましては、ほとんどコレクション展に近いからということがございます。寺田氏の新作があるのですが、収蔵作品での展覧会ということになりまして、その際、値段を抑え目にするのが慣例となっております。ご指摘の通り部屋が半分という点も加味されたかと思っておりますが、それに伴い500円という値段に落ち着いたという経緯があります。おっしゃるように安すぎると観覧者が来ないという視点も入れて調整できればと思っております。

委員： 5ページの指定管理者収支予算の収入に「その他」とありますが、令和7年度の収支予算には展覧会事業費、教育普及事業費、収蔵品移転準備費に各々その他があります。8年度は展覧会事業費に「その他」として80万円計上されてはいますが、内訳について説明してください。

美術館管理係長： 令和8年度の展覧会事業費の「その他」80万円の内訳としては、50万円が助成金収入を見込んだものです。残りの30万円につきましては、指定管理者である文化振興協会全体で、他の施設との連携事業等に充てるということで、各施設の収益事業からの割り当て分として30万円を美術館の収入として計上し、計80万円を「その他」としてあげております。7年度は展覧会事業がございましたので、教育普及事業の方で、助成金の収入を見込んでおりました。そのため、内訳が異なるというようになっております。

委員： 12ページのボランティアについて長期的には美術館、リニューアル後のアートコミュニケーター制度を見据えたものであるとのことですが、この位置づけは一部の自治体で実施している、市民学芸員のようなものでしょうか。

館長： アートコミュニケーター制度については、まさにこれから検討・構築していく段階であり、現時点で具体的な運用方法が確定してはおりません。その中での一例として、美術館がリニューアルされ、常設作品を専門に扱うギャラリーが整備された際には、そこでのギャラリートークや作品解説などを、アートコミュニケーターの方々に担っていただくというアイデアも出ています。また、「アーツ中村橋」のように屋外で展覧会を行う事業が継続していく場合には、屋外の店舗と来場者をつなぐ役割を、アートコミュニケーター

の方々に担っていただくことも想定しています。現在、美術館でお願いしているボランティアと比べると、より幅広い役割を担っていただきたいと考えております。

そのため、研修等のプログラムについても充実させ、美術館活動全般に幅広く関わっていただけるような制度として検討を進めているところです。

委員：美術館は中高生の美術ゼミや小学生を中心としたワークショップを積極的に行っており非常に頼もしいと思います。練馬区は非常にいいポイントをついているので、PRは積極的に練馬区もやっているとは思いますが、打って出るという姿勢が欲しいと思いました。

文化・生涯

学習課長：先ほどもお話がありましたが、コミュニケーター制度については、まさにこれから実際に構築していくものだと考えています。そこには、当然、行政としての市民参加の視点も含まれており、その中で、美術館という場にとどまらず、教育の場としても、多様な活動に関わっていただくことを視野に入れております。また、「打って出ていく」というお話がありましたが、練馬区としてこれまで取り組んできた事例の一つとして、協働の分野では、専門部署を設置し、さまざまな市民活動を支援してきた実績があります。さらに、文化芸術の領域においては、美術館のフィールドに限らず、令和8年度からは「もっともっとアートプロジェクト」として、PR的な側面にとどまらず、街で活動している文化芸術団体の方々とも連携していくことを考えています。例えば、「江古田のまちの芸術祭」のように、江古田周辺の商店街の方々を中心となり、各店舗で展示やアート活動を行うイベントがありますが、そうした取組も巻き込みながら、次なる文化芸術事業の展開を、区民の方々と共に作っていきたいと考えております。今後は、こうした取組を、区民の皆さまにとって、より分かりやすい形で見えるものとしていく工夫についても、検討していきたいと考えてございます。

委員：5ページについて伺います。

昨年11月に美術館の改築計画が一時停止となり、その後に企画展等の計画を立てることは大変であったと思います。現在も物価高騰が続いていますが、予算面で支障は生じていないのでしょうか。

また、今後も企画展を継続していく方針である一方、業者に空きが生じ、急遽改築工事を実施できる状況となった場合には、企画展が中止となる可能性があると考えられますが、その際の対応はどのようなものになるのでしょうか。

以上の2点について伺います。

文化・生涯

学習課長：まず、予算についてお答えいたします。物価高騰については、美術館分野に限らず、区全体の予算編成の過程において、物価上昇率を考慮しながら事業を継続する方針のもと、予算編成を行っております。美術館の予算につきましても、各経費について物価高騰を考慮した内容で

編成しております。

館長： 企画展の準備期間が短くなっていることは事実です。学芸員への負担が大きくなることは望ましいことではありませんが、今回はやむを得ない事情があり、集中して取り組んでいるところです。
ただし、来年度についてはコレクション展を中心とした構成となるため、一定程度は館内の対応で調整が可能であると考えています。
一方、他館等から作品を借用する場合には、会場が決定していなければ依頼ができません。
来年度の企画展は現美術館で実施する計画ですが、再来年度以降については未定です。美術館の再整備の進捗にあわせて事業計画を立てていく必要があります。

美術館再整備

担当課長： 補足をさせていただきます。後ほどご報告いたしますが、今年度はコンストラクション・マネジメントを導入し、工事期間や金額等の妥当性の検証と併せて、建設業界へのヒアリングを実施しました。
来年度につきましても、引き続き建設業界へのヒアリングを行うとともに、業界動向の調査を進め、今後の方向性を見極めていく考えです。
今後も、美術館および文化・生涯学習課と逐一情報共有を図りながら、より良い展覧会、より良い美術館づくりに取り組んでいきたいと考えています。

会長： 9ページに記載の「戦後アヴァンギャルド・ユアサエボシ展」について伺います。本展は、オマーージュ展として位置付けるものなのか、それともクリティカルな視点をもった展覧会とするのか、現時点ではどのようにお考えでしょうか。

学芸員： 難しい点ではありますが、今年に入り中村宏氏がお亡くなりになったことを受け、当初の想定よりも中村氏の紹介を充実させていくという意味では、ある種オマーージュ的な側面があると考えています。
一方で、ユアサエボシ氏は40歳前後の現代作家であり、同氏が架空の作家「ユアサエボシ」を登場させ、物故作家である戦後アヴァンギャルドの作家と作品を通じてコミュニケーションを図るという点では、オマーージュ的な要素を持ちつつも、今日の視点から戦後作家と同時代を生きるという意味で、クリティカルな側面も併せ持っていると考えています。
世代を超えたコミュニケーションを美術作品を通じて展開できるものと考えています。

会長： ギャラリー小柳をはじめとした動きなど、現代美術の傾向が反映されてくるものと思われます。それらをどのように表現・解釈されていくのか、楽しみにしております。

学芸員： 先日までギャラリー小柳においてユアサ氏の展覧会が開催されており、ま

た、4月上旬まで東京都現代美術館において新収蔵品の展示が行われています。注目を集めている作家の作品を、当館の収蔵作品と組み合わせで紹介できる機会になると考えています。
ぜひご指導をいただきながら、内容を充実させていきたいと考えています。

会 長： 「令和8年度事業計画(案)」について、他にご質問がないようですので、承認とさせていただきます。
次に、次第2「令和7年度事業報告」に入ります。
それでは「令和7年度事業報告」について説明をお願いいたします。

館 長： <「令和7年度事業報告」について説明>

会 長： 「令和7年度事業報告」について質問等がありましたらお願いします。

委 員： 目標者数および観覧者数について伺います。昨年は目標比が60%台とのことですが、例年も同様の水準なのでしょうか。それとも、昨年度のみの数値なのでしょうか。

館 長： 目標比につきましては、年度ごとにも展覧会ごとにもばらつきがあります。令和6年度に実施した平田展や三島展については、目標に近い観覧者数を確保することができました。
目標数値の設定にあたっては、過去のさまざまな実績や傾向を踏まえて定めていますが、必ずしも想定どおりの結果にならない場合もあります。

委 員： 目標比が100%に近い場合と、そうでない場合とでは、その差の要因について、展覧会の内容によるものなのか、広報の方法によるもののかなど、振り返りを行っているのでしょうか。
また、その結果を踏まえ、今後の対策は検討・実施されているのでしょうか。

館 長： 毎回、基準となる広報PR活動を行いつつ、展覧会ごとに想定するターゲット層が異なるため、個別に適切な方法も検討しながら対応しています。広報物の送付先を変更したり、SNSを重視したり、広告出稿や車内テレビジョンを活用したりするなど、複数の手法を実施しています。
これらの広報手法がすべて十分に効果的であったかどうかについては検証していますが反省すべき点も多いと認識しています。

委 員： 17ページ以降を拝見すると、さまざまな広報に取り組まれていることが分かります。アートは視覚的に楽しむ要素が強いことから、LINEやXよりも、Instagramのほうが相性は良いのではないかと感じています。
実際に、美術を好む友人のInstagramを見ても、情報発信が非常に充実していると感じています。

例えば、ユアサ氏の展示が東京都現代美術館で行われているとのことですので、ハッシュタグを活用することで、練馬区外からの来館者を呼び込むことも可能ではないかと思えます。

そこで、Instagramを活用していない理由についてお聞かせください。

館長： ご指摘のとおり、Instagramは実施しておりません。SNSをある程度絞り込み、フォロワーを増やしていこうとしていますが、Instagramの効果性については日々議論しています。効果的なメディアを使用するに越したことはないと考えておりますので、勉強させていただきます。

委員： 美術品の購入予算について伺います。毎年度、あらかじめ一定額の予算を申請しているのでしょうか。

館長： 作品の購入について美術館に求められている役割は、購入にふさわしい作品を推薦することであり、その後の判断や予算措置については区の所管事項となりますので、詳細は区からご説明します。

文化・生涯

学習課長： 恒常的な予算として当初予算に計上しているものは、現状ではありません。ただし、財政当局も含め、継続的にコミュニケーションを図っています。コレクションの収集方針などの基本的な考え方を整理したうえで、さらなる庁内調整を進めていきたいと考えています。

委員： 良い作品を購入できそうな場合に検討を行い、必要に応じてオファーをかけていく、そのような認識でよろしいでしょうか。

文化・生涯

学習課長： そのとおりです。現状では、文化芸術振興基金を有しています。この基金のメリットとしては、例えば作家がご逝去された際に、改めて予算を編成することなく作品を購入できるなど、柔軟な対応が可能である点が挙げられます。

一方で、恒常的な予算として計上する場合には、限られた予算の範囲内で、学芸員がコレクション形成に向けて工夫を重ねながら取り組むことができるというメリットもあります。

会長： 「令和7年度事業報告」について、他にご質問がないようですので、承認とさせていただきます。

次に、次第3のその他に入ります。

事務局から何かありますか。

美術館再整備

担当課長： <練馬区立美術館・貫井図書館改築等実施設計について説明>

会長： 「練馬区立美術館・貫井図書館改築等実施設計」についてご質問がありましたらお願いします。

委員： 1.5階にあるカフェは、何席ぐらい入る広さなのか教えてください。

美術館再整備

担当課長： 座席数については手持ち資料がないのですが、面積は約100㎡です。

委員： カフェなど座る場所があると、人が集まりやすく長い時間滞在したくなると思います。国立新美術館は、フリースペースに座れる場所があり、カフェに入れなくても1階で楽しめたりします。カフェが100㎡だとあまり人が入れないのではないかと思うのですが、1階にテーブルや椅子を置いてゆっくりできるスペースはありますか。

美術館再整備

担当課長： カフェの座席を置く部分は約100㎡ですが、カフェの外や1階フロアを含めて、ちょっとした空きスペースに椅子などを置いて皆様が休憩や交流できる空間をつくるなど、余白のある建物にできればと思います。

委員： 約100㎡の中には、キッチンなど調理スペースも含まれていますか。オープンキッチンのようになっているのでしょうか。

美術館再整備

担当課長： キッチンも含まれています。オープンキッチンのようなイメージです。

委員： 図書館部分について、子ども向けのスペースはもう少し工夫できるような気がします。本がたくさん置かれているのはよいと思いつつも、子どもが冒険をしたくなるような、はまりたくなるようなスペースがあるとよいのではないかと思います。

美術館再整備

担当課長： 1階にブック・アート・キッズスペースがあり、子どもが本を読んだりアートに触れたり工作ができ、天井もやや低めなので、ワクワクするような場所になっているのではないかと思います。

会長： よろしいでしょうか。では、ご発言がなかった方から一言ずついただければと思います。

委員： まちなかでの展示に関連して、石神井公園で2月に開催されているねこフェスで、商店街に犬と猫に関する絵画や彫刻を展示しています。現在は工事でビルがなくなり、飾る店舗も少なくなりましたが、新しくビルができれば活発に絵画・彫刻を陳列するイベントを開いていきたいと思っています。

委員： 2月に石神井公園ふるさと文化館で開催された浮世絵展について、予想よりも集客が少ないとのことでしたが、会場が駅から遠く、真冬の厳しい時期に、無料展で、37日間で1万人以上来場されたというのは素晴らしいことだと思います。

委員： 令和8年度の展覧会事業について、学芸員が少ない中で4本の企画展を続けるのは大変なことだと思います。中村橋のような活気のある商店街と連携して美術館活動が続けるのはとてもよいことなので、ぜひ頑張っていたきたいと思います。

委員： 「アーツ中村橋」というネーミングは、「アーツ前橋」に寄せたのでしょうか。また、中村宏氏のアトリエの保存などは考えていますでしょうか。池袋モンパルナスについて、豊島区ではあまり文化事業としては触れられなくなっています。練馬区では、池袋モンパルナスの作家、その次の世代の中村宏氏や野見山氏の作品収集等、力を入れてほしいと思っています。若林奮氏はファンなので、期待しています。イベントで交流があった吉増剛造氏や建畠氏などを呼んでいただけると嬉しいと思います。

学芸員： 中村氏は生前からご自身で作品の寄贈先を決めていらっしまったようで、現在、ご家族が作品の整理をされているところかと思っています。アトリエに関する動きは把握しておりません。

委員： 美術館は、生徒作品展でお世話になっていますが、今年度は改築の関係で使用できず、石神井公園ピアレスで開催しました。やはり展示できる作品数が少なく、小学校からは「美術館を使いたい」という強い要望がありました。来年度は、美術館をお借りして開催できることになっています。ピアレスの時は、4日間で3,000~4,000人の方が来場してくださいましたが、美術館で開催すれば作品数が増え、ご家族の方も楽しみにいらっしまいますので、来場者数も増えるかと思っています。
改築に関しては、期間が長いと思いますが、イメージパースを見ると夢が広がります。子どもたちが集う様子が感じられますし、カフェに来たついでに何かを見るというような形で、たくさんの方が集えるような場所になるのではないかと期待しています。
職場体験でも美術館にはお世話になっておりますので、末永くよろしくお願ひ申し上げます。

会長： ありがとうございます。では、最後に、今期をもちましてご退任される委員の方からご挨拶をいただきたいと思います。一言ずつご挨拶をお願いいたします。

<退任委員挨拶>

会長： ありがとうございました。今後のご活躍をお祈りいたします。
以上で美術館運営協議会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。